

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年12月11日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691200309
法人名	医療法人 誠井会
事業所名	グループホーム陽だまり日輪荘
所在地	鹿児島県霧島市国分広瀬二丁目29-37 (電話) 0995-55-0700
自己評価作成日	令和3年11月7日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピー

当ホームは母体は脳外科・皮膚科を有する医療機関であり、小規模多機能ホーム、デイサービスセンター、サービス付き高齢者住宅、居宅支援事業所等が隣接しており、相互に連携・協力し緊急時の対応は迅速に行える体制となっています。また、閑静な住宅街に位置しておりホール内からは四季折々の家庭菜園づくりが眺められ、季節の移り変わりを感じる事が出来ています。昨年より感染症防止対策の徹底を図っており、研修・シュミレーションの実施を定期的に行っています。

日々の生活面では、「その人らしく」を大事におひとりお一人の「～したい」に応えられるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道10号線から少し中に入った閑静な住宅街の中にあり、近くには神社や小学校、自衛隊駐屯地等がある利便性の良い環境に位置している。法人は母体病院をはじめとして複数の介護事業所を運営しており、理念や会議、職員研修、避難訓練等、十分な連携体制が構築され、利用者主体のサービスが提供されている。

職員は、落ち着きと思いやりに満ちた家庭的な雰囲気の中で、ゆったりとくつろげる場所となるよう理念を日々唱和し、記載した理念をネームプレートに入れて意識付けを図っている。法人は①保健衛生、②防災、③身体拘束廃止・高齢者虐待防止、④リスクマネジメント、⑤給食、⑥テクノロジー導入、⑦オンライン研修システム、⑧アクティビティ、の8つの委員会から構成され、職員は複数の委員会に所属して活動している。管理者は職員間のコミュニケーションを密に図り、意見や提案を自由に言い合える職場環境づくりに努めている。

現在はコロナ禍で様々な活動ができにくい状況にあるが、そのような中でも利用者の尊厳や人格を大切に、不安を軽減できるような声かけに努め、可能な範囲で外出したり家族との面会を工夫し、レクレーションを充実させて利用者の精神的なリフレッシュを図り、本人らしい暮らしとなるように支援している。今後はコロナが落ち着いたタイミングで、現在実践できていない活動を少しずつ再開して、理念に近づけるような支援を目指して取り組んでいきたいと考えている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	介護事業部全体での基本理念を掲げており、理念を下に、事業所計画や目標をたて実践に繋げています。玄関・ホール内・職員トイレ等に理念を掲示し意識付けに努めています。	その人らしく、落ち着いて家庭的に過ごせることを目指した介護事業部共通の理念をホーム内に掲げ、可能な限り日々唱和している。認知機能や体力の維持・向上を目指し、地域交流に繋げることを今年度の事業計画の目標としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会員となり可能な限り地域の一員として交流できるよう図っていましたが新型コロナウイルス感染症予防の為、自粛させていただいていました。今後、感染状況を見つつ交流や社会参加に努めていきたいです。	自治会に加入し、例年は地域との交流を深めているが、運営推進会議への参加も得られずコロナ禍でほとんどできていない。隣の敷地に畑を借りて野菜や果物を作っていたが今は控えており、散歩や外気浴で地域の方々と挨拶を交わす程度となっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	実践活動の中で雑巾づくり、新聞紙を活用した袋づくり等を行い定期的に地域の商店に買物袋として一般の方が利用できるように寄贈させていただく中で、認知症への理解や支援方法、活動内容を含め地域の人々に向けて発信し残存した能力を活かしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、利用者やサービスの実際、取り組み状況等について定期的に資料配布を行い報告とさせていただき、電話等により意見を伺いサービス向上に生かしています。	通常は2か月毎に開催しているが、現在は家族・自治会長・班長兼務の民生委員・市職員・地域包括支援センター職員に対し、ホームの入居状況・利用者の概要・活動内容等について記載した書類を配布している。本年11月より会議を再開しようと計画中だが、実現にはいたっていない。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当法人・介護部長を中心とし日頃から連携を密に取り事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え、協力関係を築くように努めています。	市職員とは日頃から連絡を取り合い連携を深めているが、現在は運営推進会議も開催できず、専ら電話でのやり取りが中心になっている。ホームの相談に対する指導・助言等も得られ、行政的な手続き等は介護事業部が中心となって行われ、会議はリモート参加するなど協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心とし毎月の定例会前と2月に1回、またはその都度に実例・資料などを用い「禁止の対象となる具体的な行為」と逆に「身体拘束を行う為の過程」を学び、身体拘束を行わない為の取り組みをできるよう会議・討議し玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、法人全体で身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会を中心に研修を行い、知識や技術を習得することにより、身体拘束をしないケアの実現に取り組んでいる。利用者を待たせる場合でも理由付けして説明し、職員間で利用者に関する情報をやり取りする場合には、その場を離れて行うように気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を中心とし毎月の定例会前と2月に1回、資料等を用いて定期的に学ぶ機会を設けており、スタッフ間でのケア方法、声掛け等、その都度気づきを注意し合える関係性の構築、アンガーマネジメントの学習も計画し、虐待の防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修を行い学ぶ機会を設けているが活用の必要性のある方は現段階ではいらっしやらない。今後も研修・資料回覧等を行い、学ぶ機会を設けていきます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・改定時に重要事項説明等を用いて細かく説明して、疑問点についても丁寧に十分に説明後同意の上で契約しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様の意見や想いを把握できるように、意見箱の設置と何時でも意見・要望が聞ける関係の構築、環境づくりに努めており、それらを運営に反映させています。	利用者の思いは日々のケアの中から会話や見守りを通して把握に努め、家族に対しては年1回の嗜好調査やアンケート等を実施して意見等をもらっており、面会のためによく訪れる家族とは様々な意見交換ができています。2か月毎のホーム通信は、家族にとって利用者の生活の状況がわかる機会となっているため喜ばれており、家族との信頼関係を構築できるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス・業務改善時に意見や提案が聞かれ、また、役職会議や法人介護部定例会もあり情報の収集や改善事項などに対しても意見の反映に繋げるように取り組んでいる。	管理者はカンファレンスや会議等の機会をとらえて、職員間のコミュニケーションを密に図り、意見や提案を自由に言い合える職場環境づくりに努めている。有給休暇の取得にも可能な限り対応し、研修等は勤務として参加できるような体制をつくり、職員のスキルアップ、サービスの質の向上に繋げるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自、年間のスキルアップ目標を提出し、それに沿って研修やスキルマイスターへの参加等の提案、定期の面談の実施でスタッフ一人一人のモチベーションや、仕事への思いを聴取し、それぞれの向上心、目標達成できるように環境・条件の設備に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修では職員研修委員を中心としスマホからの動画視聴・資料回覧。外部研修はオンライン・ZOOM参加を行う中で職員の能力・ケアの向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会や情報（オンライン電話）情報を交換し事業所の向上に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族様より入居前の情報や意向を聴取し、不安なことや要望以外にも本人が生まれて来られた環境、思いも聞き取ることで本人様の安心とする環境・信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケースにより、本人、家族の関係性は様々でありご家族様の抱えていられる介護への困っていること、不安・要望等を傾聴し些細な事でも話せる環境づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス意向を伺う中で本人・家族のニーズを見極め、他福祉・介護施設の説明を行いニーズに合った対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	傍らに寄り添い傾聴、共感する中で本人を知りご本人様に学び暮らしを共に過ごし支え合う関係性に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	環境的に可能である窓越し面会・電話・お便り・モニタリング郵送時、ご本人の思い、状態をお伝えし、また、それぞれの場面にあった環境づくり対応を心がけより良い関係を保たれるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症防止の為、馴染みの場所へは行けていませんが馴染みの方々へは、時節の挨拶状をおくられたり、電話されたりと、関係性が途切れないよう支援に努めています。	現在はコロナ禍のため、利用者を取り巻く馴染みの人間関係が途絶えがちな状況にあるが、入居時のアセスメント等で得られた情報を共有し、知人や家族との電話・手紙の取り次ぎや代筆・2か月毎の訪問カットなど、馴染みの関係が継続できるような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性等、考慮しつつ活動や日々の生活を把握し一人ひとりが孤立しないようまた、利用者同士がかかわりあい、支え合えるよう環境提供に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご本人様・ご家族に差し支ええないよう必要に応じて相談や支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時、生活歴、思い、今後の暮らし方の希望、意向を聞いたうえで対応を行っている。意思疎通困難な方には今できる状況状態を把握したうえでその人らしい暮らしの実現に努めている。	利用者の思いや希望については、加齢や認知度低下が進行すると把握が難しくなるため、入居時の把握が最も大切であると考えている。日々の様子からは表情がわからなかったり気持ちを察知できないこともあり、言葉かけを大切に、申し送りノート等を活用して本人らしい暮らしとなるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時、ご本人様へ生活歴、暮らし方、環境を把握しサービス事業所との連携を図り、細かな部分への情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活におけるご本人の状態を観察しながらカンファレンス、申し送り等を通し、その人らしい生活ができるように取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	夜間、日勤帯の情報を収集し、本人の生活リズム、生活活動について、スタッフ間でカンファレンスの中で意見交換し、ご本人に合わせた個別ケアを実施し、個々に合わせたケアプラン作成を行っている。変化する症状、能力による困難動作におけるケア、支援も随時ケアプランに反映し、実践できる体制を心がけている。	利用者や家族の思いや希望を把握した上で、フェイスシートや職員間のカンファレンス等により、利用者の状態に合わせた介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングを行い、更に担当職員による毎月の評価や家族への状況報告等もすり合わせ、利用者の状態変動に対しては随時計画を修正しながら、本人が望む暮らしの実現に向けて取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	認知症対応共同生活介護記録・看護記録・申し送りノートの活用を行いスタッフ間の情報共有を行いながら実践・計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状態の変化に応じその都度、関連事業所での連携を図りその人らしさのニーズに応じられる様取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、ボランティア、行政機関、他介護事業所等の協力を頂きながら、ご指導、助言、交流を通して地域密着型施設としての役割が果たせるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の了解（承諾）を頂き主治医による診察（定期・緊急時）訪問診療にて対応、定期受診においては看護師同行受診対応。	利用者は入居後に主治医を母体病院に変更し、専門診療科は家族の協力を得ながら他院を受診している。定期的な外来受診を基本としているが、必要に応じて訪問診療も可能となっており、12月からは訪問歯科診療も再開している。ホーム内に看護師の有資格者がおり、受診同行をはじめ受診結果についても必要時は家族に報告し、主治医とは24時間連絡体制が整備されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の業務の中で状態変化、細かな事への気づきなど看護職員へ報告を行い相談し、適切な受診、看護が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供書による疾患、ADL、認知面における情報の提供や経過報告を行うことで医療機関での迅速で適切な治療が行えるための連携を取り、退院に向けては状態・状況に合わせ事前に経過把握・病院との連携を図り、退院時カンファにも参加し、状態の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を定め事業所体制・本人・家族への説明を行い同意を得て支援、緊急時重度化などの段階に応じた対応、主治医、関係医療機関と連携を図りチーム支援に取り組んでいる。	「看取りに関する指針」を基に「重度化対応に関する指針」を今年12月に作成し、入居時及び重度化した時点で本人・家族に説明し、同意を得ている。利用者の状況に応じて変化する家族の思いに寄り添い、医師をはじめ関係スタッフで十分に話し合い、適切な支援が提供できるように取り組んでいる。これまでに看取りの事例があるが、最終段階で殆どの利用者・家族が医療機関への入院を選択されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災委員・保健衛生委員・リスクマネジメント委員会を中心に定期的に急変や事故発生時に備えて応急手当や初期対応を訓練しており日頃からの意識付け・知識の習得に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心として定期的な訓練を夜間の1人体制も想定して行い、同法人事業所との合同訓練の実施を行っています。地域との協力体制は、自治会員となり自治会を通じ、協力体制を築いています。	「非常災害対策計画」に基づき、消防署立ち会いで地震・火災に対して年2～3回、法人内合同で風水害に対して年1回、自主訓練2回を実施している。普段は地域住民の協力を得て実施しているが、現在は協力は得られずホーム内での実施となっている。ヘルメットは夜間は居室に、日中はホールに準備し、水・レトルト食品・懐中電灯・カセットコンロ等も常備している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの性格、認知症の症状の違いを理解し、日常の言葉遣いについても人格の尊重に留意し、不適切な言動がないよう職員間で共有した情報を下に、不適切な言動があった際には注意し合うようにしています。	「プライバシー保護マニュアル」を作成し、法人内で接遇マナーの研修等を行い、利用者に対して尊厳に配慮したケアに取り組んでいる。入浴・排泄・高齢者虐待防止等の必要な場面において、また利用者の前で他利用者のことも含めて状況に関する職員間での情報交換をしないなど、声かけや対応に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の声掛け、傾聴を行っている中で本人様の思いや希望を汲み取り、オープンドクエッション、クローズドクエッションを活用し自己決定できるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた起床や入床。食事の時間も本人のペースに合わせて調整させて頂いています。毎回の朝の挨拶では活動内容を説明し、ご希望の活動ができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	好みに合わせた服装の選択や身だしなみを心がけています。また、イベント等の日には、お化粧をしたり、気分が変わるような雰囲気づくりにも努めています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好にあった物や季節行事食の提供を行い、また、旬の食材を使ったおやつ作りを心がけ、食事を楽しんで頂けるよう努めています。	昼食と夕食は法人内の施設に入っている業者により提供されるため、ホームでは朝食のみ作っている。利用者の状態に合わせて刻み食も提供され、みんなでおやつを作ったり季節に合わせた行事食を楽しんだりして、食べることが楽しみとなるように支援している。	

12

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様に必要な栄養を医師に相談し栄養士からの助言を受けながら提供しています。また、水分はその時にご本人様が飲みやすい物に代替するなどし、一日に必要な水分量の提供に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、義歯磨き、うがいを行い、夕食後、就寝時は義歯を消毒の為、洗浄剤を使用し清潔保持・衛生管理に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の生活リズムに合わせた声掛け、トイレ誘導を行い、入居者一人一人に合わせて、日中と夜間の排泄用具を変更するなど、排泄自立度の維持と、睡眠時間の確保にも努めています	排泄チェック表を活用して利用者の生活リズムを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。トイレ誘導の際には、さりげなく席を立てるように促し、トイレ内では所要時間を考えて必要時に介助を行い、利用者にとって過度なケアにならないように努め、自尊心やプライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて毎日の排便確認、把握し水分量、食事内容・量に注意し、便秘予防に努めており改善できない時はDrに報告、相談し頓服薬にて対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は週3回を基本にし、タイミングが合わなかった方は日にちを替えて実施している。入浴時は、本人の残存能力にあわせて、できる事は自立支援に繋がるように取り組んでいます。	入浴は1対1の個浴かけ流しで週3回、利用者の体調や希望に沿っていつでも可能なように柔軟に対応している。シャンプーや保湿剤は共用とし、入浴剤は使用せずに、入浴後の水分摂取にも配慮している。入浴をためらう場合は、時間や対応する職員を変更するなど、利用者の気持ちを尊重した支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、その時々体調や本人の希望に合わせて休息の声掛けを行い、夜間は室温・部屋の明るさ等、本人の希望に添うよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の体調や排便、食事摂取量に変化が生じた場合は常時、医師に報告しています。服薬の際は誤薬防止の為、職員間で名前を読み上げダブルチェックを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割の提供と楽しみ事の支援をしている。コロナウイルス感染予防・外出自粛の為、様々な室内活動内容を準備し支援に努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、外出が出来なくなっていますが車中でのドライブは、行っており季節を感じて頂けるよう支援しています。家族との面会も直接できない為、窓越しにて面会をしていただくよう支援している。今後は、コロナウイルス感染症減少によつては感染防止対策を徹底し面会して頂くよう努めます。	コロナ禍において、外出がかなり制限されている状況ではあるが、季節に合わせた車中からの花見や紅葉見学、海へのドライブ、近所の散歩など可能な限り支援している。家族との面会は窓越しや電話で行っており、外出が難しい状況だからこそ、ホーム内でカラオケやゲームの充実を図り、リフレッシュできるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様のお金所持はございませんが、必要な物があるときは、事業所にて購入させていただいています。お金の使用を希望された場合は支援できるよう取り組んでいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人や家族の希望があればいつでも電話を掛けたり、取り次いだり、手紙の読み書きを介助し、連絡が取れるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険物、障害物の除去により生活動線の確保、清掃により清潔で安全な環境づくりに努めています。また、室温・湿度調整・遮光など快適に過ごせるように配慮しています。壁には季節ごとの飾りつけや本人の作品を展示して居心地がよく楽しめる空間づくりを心がけています。	明るい廊下と清掃が行き届き清潔感のある空間には、季節を感じさせる装飾・習字・作品等が飾られ、対面式キッチンやテレビ・ソファ・畳部屋もあり、居心地よく過ごせるように工夫されている。居室の掃き出し窓からは周囲を取り囲むウッドデッキに自由に出入りでき、開放的な雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望や状態に応じて、席の配置を考慮しつつ、ゆっくり休めるように居室への案内も心がけ快適な居場所を提供できるよう工夫しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご本人様の使い慣れた物や好みのものを設置して頂いています。安全に過ごして頂くよう、家具やベッドの配置を考えております。	居室にはエアコン・たんす・ベッドが設置され、馴染みの物を自由に持ち込み、安全な動線の確保に配慮しながら危険防止のためにセンサーマットやL字柵を用いて利用者が安全に暮らせる環境づくりに努めている。居室の入口には本人が迷わないように家族の同意を得て名札と写真を貼っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様、ご家族様の承諾の下、居室ドアに名前・写真を掲げて本人様の部屋であることを理解し、できる限り自分のペースで移動・活動できることで自立した生活が安全に送れるように工夫しています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない